



日本聖公会
大阪教区教務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
教務局長 司祭 原田光雄

〈HP〉 <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> 〈e-mail〉 office.osaka@nsk.org

第414号 2010年8月8日発行

京都教区との合併について

司祭 サムエル 福田 光宏

日本聖公会総会において「教区間協働」が取り上げられ、京都教区と大阪教区が、モデル教区に選ばれた、と耳にした時から、京都教区と大阪教区合同の2泊3日での教役者修養会が、1年に1度持たれるようになりました。最初は戸惑うことばかりでした。大阪教区は1時間もあれば、全教役者が一堂に集まることが



大阪・京都教区合同教役者修養会
2010年6月22～24日 於：金沢聖ヨハネ教会

可能です。しかし、京都教区では教区会を開くにも泊りだけでなければ開けないのです。教役者会の幹事も6つの「伝道区」が回り持ちで務めておられます。わたしの印象では、6つの教区があつて順番に幹事を引き受けているように感じられます。和歌山伝道区から北陸伝道区まで、毎年幹事が入れ替わります。大阪教区は1つの教区内で毎年3人ずつ幹事が入れ替わります。そのような事情もあつてか、毎年の合同教役者会は、京都教区主導で行われてきました。

最初の2回ほどは、京都教区の教役者会に大阪教区の教役者をご招待を受ける形で「協働？」がなされました。参加費は同額でしたが、いわゆる宴会の諸経費等は京都教区が負担してくださいました。京都教区の教役者会は、積立金を随分と持つ

ておられるようで、二言目には「積立金で賄っておこう。」ということになりました。更には教区主教のポケットマネーから10万円ほど援助して下さるとお聞きし、大阪教区の幹事も慌てて、その場から主教に電話で10万円の支出を頼んだことでした。

初めての合同修養会2日目の夜は、大人の宴会（京都教区）に中学生グループ（大阪教区）が招かれたような形となり、本当に度肝を抜かれ、大いに違和感を覚えたものでした。経済的には「お荷物的存在」ながらも、「教区間協働を目指して、大阪も大いに発言しよう。」と幹事で話し合いました。

回を重ねるごとに、両教区の幹事間のコミュニケーションも深まり、両教区の思いが多少は通じ合うようになってきました。今夏の修養会での新たな発見は、午後からの自由散策の時間、両教区の教役者が入り混じって散策を楽しんでいたことでした。これまでは、何となくそれぞれの教区毎のグループで自由時間を過ごしていたように思います。

2つの教区間、しかも同じ教役者同士の協働でも、結構長い時間を要するものなのだなあ、と実感しております。

合同教役者会のみならず、合同常置委員会や合同の諸委員会・諸行事も持たれております。両教区のさまざまなプログラムが各教会宛に流されております。相手教区でのプログラムへの参加者は少ないものの、徐々に交流は進んでいるように思われます。今夏の教役者会最終日には、大西主教が「少なくともわたしの定年退職の日までには、京都・大阪教区は合併します。」と宣言なさいました。

合同教役者会は、今夏の修養会で京都教区の伝道区を一巡しましたので、6年間交わりの時を持ったことになりました。そのことを思いますと、信徒レベルでの交流は、これまでの数倍もつ必要があるように思われます。京都教区との合同のプログラムを目に耳になさったら大いに参加くださるようには、お勧めいたします。

（ふくだ みつひろ 高槻聖マリアヤ教会牧師）

日本聖公会婦人会總會 大阪で開催

次期会長教区に横浜教区選出

エリザベツ 鈴木久美子

3年前の8月、私たち役員会の就任式で植松誠首座主教より「神様の召命です。喜んで働くように」と祝福を受けた大阪教区主教座聖堂（川口基督教会）で、6月2日（水）～3日（木）、日本聖公会婦人会第23（定期）総会が開催された。

総勢100人余りで行われた。朴司祭は良く通る声で、「心を空にして、心の真ん中にイエス様を受け入れるように」と話され、皆元気づけられた。会館の3階に席を移し、議事が始められ、諸報告を承認。感謝箱献金おかげ先に関する議案では、「東アフリカの子供を救う会」、「国際子ども学校」、「リグリマ」、中部教区「可児ミッション」への支援が決定された。

開会聖餐式は司式・大西修 大阪教区主教、説教・朴美賢 司祭（大韓聖公会釜山教区出身、宣教協働者として東京教区所属）、出席者は総会代議員（10教区各2人）をはじめ、各教区チャプレン、傍聴者、

夕食後は、第54回国連女性の地位委員会・ACC代表団イベント（今春ニューヨークで開催）に管区から要請を受けて参加した方の報告があり、その後、被献日献金活用審査会（代議員・役員会・チャプレンの27人参加）と、コアスタッフによる

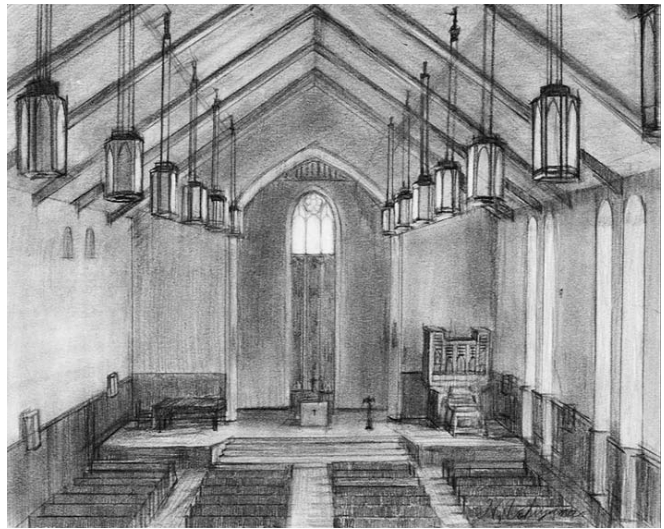


開会聖餐式 朴美賢司祭

「感謝箱献金のおかげ先から考える」というプログラム（傍聴者ら約55人参加）に分かれ、それぞれ就寝前の祈りで1日目を終了した。

2日目は、朝の礼拝に続き、議事を再開し、役員会が3年間試行錯誤した被献日献金活用に関する議案、会計の決算・予算に関する議案等を可決し、最後に次期会長教区の選挙が行われ、横浜教区が選出された。

この3年間、私たち役員会の課題は、コア（感謝箱献金事務局）との連携のあり方、被献日献金活用申請制度の2点であった。新しい役員会でさらに検討していただきたいと思っている。お支えいただいた内田望チャプレンと大阪教区の皆様に感謝します。（すずき くみこ 2007年～2010年日本聖公会婦人会会長・恵我之荘聖マタイ教会信徒）



日本聖公会 大阪教区 教区礼拝

2010年9月26日(日) 10時30分～
(聖霊降臨後第18主日)

場所：プール学院清心館（JR環状線桃谷下車）

司式：大阪教区主教 サムエル 大西 修 師父

説教：司祭 ヨハネ 奥 康功 師（西宮聖ペテロ教会牧師）



議場風景

まと共にあゆむ 9



教会との出会い

ペテロ 岡本 直樹

私が初めて教会に行きましたのは、高校一年生のときでした。学校に宗教という授業があり、「クリスマスに教会に来ると、何かしらの特典があるよ」と言う、担任の一言から教会の門をくぐるこ

になりました。その当時私の頭の中には、教会に行く人は俗に言う「いい人たち」ばかりで、一部の特権階級の人たちが集うところという誤った認識がありました。

るい顔をしておられました。当時生意気盛りだった私は、この人たちをこんなに明るくしているのは、いったい何なのかを探ろうと、そんな好奇心めいた気持ちから聖書を読みだして、教会に通うように

になりました。そして、あつという間の5年間の教会生活の末に、洗礼、堅信を受けることになりました。教会に通い、聖書を学んでいる中で、様々なことを色々な方々から教えられ、また聖書からも直接多くのことを教えられ、信仰の本質的な部分を示すたとえ話からも、ずいぶん沢山のことを学んだように思います。

教会に行くのも、自分で切り開いた道であるように思っています、その背後には神様の召しというものが、私はそういうところへ呼び寄せられたのではないかと考えれば、神様がともに歩いてくださっていて、何かあれば必ず走り寄ってくださるという強い安心感が、今の私の心の支えになっています。



主をくもくめくよ

幼稚園に通い始めた3歳の孫が、時々日曜日の夕方、教会の

そうに、主を求め、主を賛美して歌っているだろうか。去る7月10日、連合男子会

ひとりが心から主を賛美し歌っていた姿には感動した。主日ごとに各教会を巡回し

「全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。喜び祝い、主に仕え、喜び歌って御前に進み出よ。感謝の歌をうたって主の門に進み、賛美の歌をう

「恐れることはない。わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け、わたしの救いの右の手であなたを支える」(イザヤ書41章10節)

帰りがけに「主をくもくめくよ」と大きな声で得意げに歌いながらやって来る。その歌声を聞きながら、ふと思った。いつも礼拝や集会のたびに聖歌を歌ってはいるが、この幼

一日修養会が川口基督教会で開催され、午前部は音楽祭であった。桃山学院中高聖歌隊有志、教役者有志、プール学院中高PTAコーラス、ゴスペルグループ「エクレシ

も、一緒に祈る主の祈りの声も全体的に少し小さいということである。広い礼拝堂に満ちあふれるような賛美の歌声と祈りの声がほしい。聖歌集が重いので持つて歌うことが大変?なのか、下を向き、床

れ、それぞれのグループが、それぞれ参加者一人として参加者一人

主が初めて教会に行きましたのは、高校一年生のときでした。学校に宗教という授業があり、「クリスマスに教会に来ると、何かしらの特典があるよ」と言う、担任の一言から教会の門をくぐるこ

主教サムエル 大西修

第2回日韓聖公会スタディーツアー

地域社会と時代に根ざした
福音宣教の尊さ

フランチェスコ 成岡 宏晃



6月7日から11日の日程で、大韓聖公会の社会宣教の現場において開催された日韓聖公会スタディーツアーに参加させて頂きました。参加に際してご助力くださった教区の皆さま、齊藤司祭と原田司祭に心から感謝します。

援センターを訪ねました。「分かち合いの家」では、ホームレス支援や高齢者の雇用支援、家出をした青少年のためのシエルターなどの働きをしています。

この働きの中でもっとも大切にされており、且つ私たちが心にきざむべきことは、「地域社会と時代に根ざした福音宣教の尊さ」ということでした。それを実践するには、大韓聖公会にならない欧米とは違う日本ならではの、生きた福音を感じられる教会の働きを模索していかねければならないと感じました。

私たち日本聖公会大阪教区にも、社会宣教の礎となりうる施設があります。それは聖公会生野センターです。たくさん課題を抱えているこの施設

設ですが、福音書の中でイエス様が成された多くの御業に見られる「貧しく、小さくされた人々のための働き」をまさに体現し、何より地域と社会に根ざした尊い働きを担っています。

現代の日本社会には、何らかの原因によって苦難や困難を強いられている方が大勢います。今、私たちがなすべきことは、世界を形成する一部であり、日本社会の中に生きる日本聖公会大阪教区として、日本社会の中で、イエス様の生きざまを証しすることではないでしょうか。また、この積み重ねが必ず福音宣教となり、教会の成長にもつながっていくと私は信じています。コリントの信徒への手紙I 13章でパウロが語っているように、どのような業もその一挙手一投足に愛がなければ、何の益もありません。その愛を育む共同体であり、イエス様の体の枝である教会での生活を私は再確認させ、これからますます主イエス様にお仕えしていきたいと思いを新たにさせて頂いた素晴らしいツアーでした。



聖公会生野センター総会開かれる

この旅を始めから終わりまで共にいて見守ってくくださった神さま、ソウル教区の李大晟司祭をはじめ、私たちが快く受け入れ、心づくしのおもてなしをして下さった大韓聖公会の皆さま、通訳の労を

担ってくださいました呉光現さん、中村香さん、柳時京司祭、そして団長を務めて下さった武藤司祭に心から感謝いたします。

ペテロ 鈴木 憲二

特定非営利活動法人聖公会生野センター第6回定時総会は2010年6月27日午後3時20分より生野区小路3丁目にある聖公会生野センターに

て開かれた。大西修理理事長(教区主教)による開会祈祷の後、同理事長の議長のもと会員30人出席(内委任状17人)にて行われた。

総会の前には大阪産業大学教授(朝鮮近現代史専攻)の藤永壯氏による記念講演会があり、韓国「併合」から100年をテーマに植民地支配と「差別」について、地域、民族をそれぞれ基準とする「差別」について学んだ。歴史教科書で韓国併合のことは学んできたが又改めて100年の節目に当たる今を認識した。

さて、総会は呉光現総主事により2009年度事業、収(次ページ4段目に続く)

大阪教区連合男子会 一日修養会 報告

シラス 長野 泰信

梅雨の晴れ間の爽やかな7月10日(土)、川口基督教会3階ホールに於いて連合男子会一日修養会が開催されました。参加者118人(音楽祭参加メンバーを含む)、金光兄(城南)の司式、福田司祭の奨励による開会礼拝後、新しい形態をとり入れた一日修養会、皆さん楽しいひと時を

どうぞとの伊藤会長の挨拶。第一部の音楽祭が開催。桃



聖職者グループの合唱

山学院125周年を記念して結成された桃山学院中・高聖歌隊総勢25人による合唱。つづいて聖職者グループ、大西主教はじめ福田・竹内・齊藤・内田・原田各司祭による男性4部〜8部合唱は何とも言えない不協和音ですが、それがまたそれなりにまとまっている合唱で、アンコールの曲も準備され、盛大な拍手が送られた。同日は京都教区、奥平一郎執事の司祭按手式が行われ、多くの大阪教区司祭も参加され不在でしたが、主教・司祭がそれぞれ練習され、思いを持って参加して下さいました。ことに大きな力を戴きました。

続いてプール学院中・高PTAコーラスグループ(越智先生はじめ15人)による合唱とパウロ教会・川口教会を練習場にされているゴスペル「エクレスシア」の皆さんによる生き生きとした賛美に豊かな気持ちになりました。

その後畑野めぐみさんの伴

奏による「みんなで歌おう」では、参加者全員で賛美をして楽しい音楽祭を終えました。今回の音楽祭は大阪教区に関わるプール・桃山の方々に参加して下さい、教会との交わりの時が与えられ大きな意義がありました。

川口婦人会の協力による美味しい昼食を頂いたのち、第二部は田宮紘執事による講演「釜ヶ崎地区での働きについて・その動機・活動内容・訴えたいこと」が八尾兄(高槻)の司会により開かれました。

海外では無給聖職や多様な働きをする聖職が沢山居られる、これならば私にも出来る」と定年退職後の道が与えられ



釜ヶ崎での働きについて語る田宮執事

(前ページより続く)

支決算が、監事より監査報告が報告され、いずれも承認された。新役員選出では前任の岡田安朝氏の退任に伴い私、鈴木憲二が選出され承認された。その後2010年度事業方針、予算が提案され、いずれも承認された。クリンもだん美術教室の活動は目覚ましいものがあり、受講生が増えている。障がい者デイサービス事業も今年は延べ2500人を超える予定である。多くの方が群れ、集いの中で生き

生きした活動がされているが、スタッフの方はフル就業でかなり多くの負担を強いられるというところである。また収入源の会費収入が予算の60%であり、全体の収支としては262万円の赤字決算であることも報告された。まさに火の車である。多くの皆様方の献金またご奉仕により、この活動がますます生きたものとなりますように、ご協力をお願い致します。(すずき けんじ 尼崎聖ステパノ教会)

た。釜ヶ崎の「二畳城」で生活するおっちゃん達の立場にたつて何が必要かを考えるのが基準。散髪のボランティアなどを通しておっちゃん達の情報をつまみ、福祉や給付の機関に繋げて行く大変苦勞の多い仕事だが、からだと健康があれば出来る、ライフ(安心)サポートセンターを大阪教区でも始められたらと。「最も小さくされた人々の中に神様がおられます」とのことばで講演を終えました。

「今わたくしたちに出来ること」を改めて強く感じ、「今しか出来ないこと」を加えねばとの思いでした。第三部の懇親会も久しぶりに賑やかにもたれました。伊藤会長・高田準備委員長はじめ諸委員の方々の思いで今までにない新しい一日修養会が準備され開催されたこと、また当日のお世話をしてくださいました川口基督教会の婦人会の皆さまに感謝します。尚同日の献金35,192円は釜ヶ崎 ふるさとの家のため献げました。(ながの やすのぶ 石橋聖トマス教会信徒)

沖繩を旅して

ヨハネ 鍋島 守一

十数年前、長野オリンピックを前にして、日本聖公会の夏の「部落解放セミナー」が長野県松代でありました。このセミナーでは部落差別問題のみならず、松代大本營の見学もありました。戦争末期、日本の敗色が濃くなっていた頃、長野県の松代一帯に大きな地下壕がつくられていました。

その構想とは、政府そのものが地下壕に潜み、ゲリラ戦で敵に挑み、はなばなししい戦果があった時、『有利な条件で和平』にもっていく、というものでした。そして選ばれたのが松代一帯でした。俗に『松代大本營』と言われていきます。沖繩戦は松代大本營の工事が完成するまでの時間稼ぎ「捨石」作戦であったと言えます。工事の完成は9月であったとも言われています。部落解放セミナー初日の夜は、長野の部落差別の歴史の講義から始まりましたが、講

師が「眠気だまし」のつもりか、トンチも含むクイズから始まりました。その中で、「日本の独立は何年でしようか」という問題を出しました。普通なら、正解は「昭和27年（1952年）の4月28日」でしょう。しかしそのセミナーに参加していた沖繩教区の聖職から抗議の声が上がりました。

「その日は独立記念日とはいえません。私たちにとっては、『屈辱の日』と言います。本土はアメリカに、沖繩を売り飛ばして高度成長に入っていたのです」。

沖繩抜きでの独立とは何であったのかを考えさせられました。

日本の米軍基地の75パーセント、それも沖繩本島の土地の20パーセントに集中している、とよく教科書的に口にしてますが、意識の中にはなく、大変申し訳ないことをしていたという反省が起こり、沖繩へ行かなければならないと言

う思いも、生理的な思いを抑えて、出てきました。私は暑さと沖繩の肉料理がどうも苦手なのです。

今回「沖繩週間・沖繩の旅」

に大阪教区より派遣と言う形で実現しました。事情もあって夫婦で参加することになりました。

今回の沖繩の旅は、「命どろ宝」の主題のもと、6月18日（金）～21日（月）の3泊4日で、『伊江島』の訪問があったのが特徴です。1日目は、伊江島に移動。夜は講義。2日目は、伊江島での沖繩戦跡めぐり、午後は「わびあい」の里」で、講義と見学。島内観光の後、沖繩本島へ、各教会へ分宿、3日目は教会の主日礼拝及び沖繩教区主催の「慰霊の日」の礼拝が諸魂の教会であり、夜は三原の教会で交流会。宿泊は各自ホテル、4日目は小禄聖マタイ教会でまとめ。以上が全体の予定です。62人の参加があり、韓国、米国からも参加があり、韓国語、英語、手話の通訳がありました。

初日は雨がふり、2日目には梅雨明け宣言とか。日差し

は大阪の8月を思わせました。

しかし、沖繩の気温は30度を越えることがまずなく、人一倍汗かきの私も耐えることが出来ました。本島の中央にある本部港より30分で『伊江島』に着きました。この平和そうな島、人口4千人程の島が激戦地となり、1500人の村民が死にました。それは日本軍が「飛行場」をつくりだしたからです。伊江島に飛行場をつくり、ここから南方に出撃を掛けるつもりでした。しかし飛行機がなくなり、逆につづしにかりました。しかし米軍はこの島に目を付け、島の表面が変わるほどの攻撃であったそうです。ゲリラが潜みそうな場所に火をつけていきました。そこで日本軍と島の人は一体となって戦うはずが、日本軍が島の人を避難所から追い出したと。しかし島の人はそれでも日本軍が守ってくれるものと思っていました。けれども気がついてみたら、日本軍はいなくなっており、米軍が突然そばに現れたのでした。『軍隊は民間人を助けない』、と



という言葉は何回も聞かれました。これからが大変、捕虜になったのはいい方で、逃げ惑ったもの、抗戦した人がいました。さらにガマといわれる自然の洞窟に逃げ込んだ人たちもいます。そして軍隊に取り残されて絶望の中にいた人々が、ガマで集団自決を開始します。100人以上の人が、機雷を中心に、生き残らないように、愛する人から順番に中心に座らせていったとの、集団自決直前の話は、生き残った人も長く語らなかつたそうです。仲間はずれにされた人々が中心から遠ざけられ、それでもなお死のうと機雷の近くにしようとしたのでした。その人達の何人が生



き残り、最近、証言をし始めたのです。

占領されれば終戦となるはずが、それから集団自決が始まっているのです。仲間が投降を呼びかけに行つて、裏切り者として処刑された人もいます。沖繩の人にとっては、終戦の日が、状況や場所によつて、さらに人によつても違ふのです。伊江島の中央の山(城山、海拔一七二メートル)から、島全体が見えるそうです。逆に戦争時には、これが米軍の標的にもなりました。午後は「わびあいの里」で、謝花悦子氏より沖繩の基地闘争を指導した非暴力の平和指

導者、故阿波根昌鴻氏の思いと行動の学びました。「剣を持つ者は、剣によって滅びる」を發展させ、「基地を持つ国は、核によって滅びる」と言ったこととです。さらに現在の基地闘争にも彼の精神が生きて続けていることも、参加者から聞きました。

そして伊江島を後にして那覇に戻り、教会を中心に分宿しました。私たちは小椋聖マタイ教会に宿泊させていただきました。3日目は、教会の礼拝に出席し、聖餐にあずかり、礼拝後は「父の日」を兼ねてか、豪華な歓迎の昼食会をして頂きました。

それから北谷諸魂教会で沖繩教区の行事として、『慰霊の日』の礼拝を参加しました。夜は三原の教会で交流会をして頂きました。最後の日は小録聖マタイ教会でまとめをしました。

今回の『沖繩の旅』には、本島を回るコースがなかったの、「米軍基地」やジュゴン(海を泳ぐ)の海を見ることができませんでした。やはり米軍基地問題、

沖繩が豊かにならないような経済援助など、沖繩の悔しい思いを感じてほしいとのことでした。日本の国の首相も、米軍基地の近くに住んでいたから、違った発想をしていたのではないかと、ということも聞きました。武器のない平和な島で戦争をし、今まで軍事基地にし、さらに自然を破壊しようとしている動きを、見直すことによつて、見えてくる本当の平和があるように思えてなりません。

(なべしま もりかず 大阪 聖ヨハネ教会牧師)

世界の窓

○コンゴの難民のために祈ろう

コンゴ聖公会管区所属のエイズおよび衛生担当委員、バリエシマ・カドゥキマ・アルバート氏によると、コンゴ民主共和国(DRC)赤道州で2009年末に起こった武力蜂起により、10万人を超える住民が難民となり、隣接するコンゴ共和国と中央アフリカ共和国(CAR)のウバンギ川沿いにたどり着き、食糧、避難所、

必見!

ドキュメンタリー映画

「沈黙を破る」

—元イスラエル軍将兵が語る“占領”—

9月26日

上映会

プール学院 清心館

教区礼拝の午後(約2時間)

被害者パレスチナ人が語る話ではなく、イスラエル人の元兵士が語るその話は、戦争の悲惨さと現実、そして真の平和とは何なのかを私たちに深く考えさせてくれるでしょう。「私たちが平和の道具としてください」と祈る私たちには必見の映画です。聖地旅行もこれを観てから行けば意味もあるものとなるでしょう。

○タンザニア聖公会タリメ教区、初代教区主教誕生

7月15日、ンウイタ・アキリ博士がタリメ教区の初代主教に選出され聖別された。タリメ教区は北タンザニアのケニヤ国境近くに位置する町で、タンザニア聖公会マラ教区の急成長に伴い創設された新しい教区である。アキリ新主教はタンザニア聖公会管区事務所秘書官として9年間従事した人物である。

(Anglican Communion News Service: July 15, 2010)

医療の著しい不足に直面しているという。また、ここ数週間にはわたり、1万人を超える難民が、DRCでの暴力行為を逃れてコンゴ共和国へと押し寄せ、手の施せないほどの混乱状態に陥っている。アルバート氏は、この出来事を全世界に発信する必要性と、世界の聖公会が彼らの救いのために祈る必要性があると述べている。

(Anglican Communion News Service: July 20, 2010)

川口基督教会創立140年記念

「英国の大聖堂を巡る旅」に 9人が参加、22教会を巡礼

ペテロ 大橋 襄



カンタベリー大聖堂を背にして
(右から3人目はアービン司祭)

川口基督教会では今年、創立140年を迎え、記念の一つとして「英国の大聖堂を巡る旅」が企画され、内田望司祭を団長に9人が6月21日から7月2日まで、イングランド、スコットランド、ウエールズの22の大聖堂・地区教会を訪れる「巡礼の旅」に出かけた。聖公会発祥の地・英国の大聖堂などを訪れて聖公会の原点に触れ、また礼拝に参

加し多くの人々と交ることによって、さらに信仰を深められたいと願いがかなえられ、望外の収穫を得て無事帰国できたことは感謝であった。旅はスコットランド・エジンバラから始まり、聖メアリーズ大聖堂などを訪問、グラスゴーに足を伸ばして大聖堂を訪問。ニューキャッスルでは聖ニコラス大聖堂、ダラムでも大聖堂の大きさに目を奪

われ、ヨークでは、永らくプール学院で奉職されたターパー司祭とロー宣教師のお二人が私たちのホテルに來られて夕食をともにし、久々の歓談は嬉しいことだった。

翌朝、ヨーク・ミンスタ―大聖堂では「洗礼者聖ヨハネ誕生日」の朝の礼拝・聖餐式にあずかり、「ビートルズの町」リバプールへ。当地の現在の大聖堂は1904年着工し、74年を経て完成したもので、聖堂としては英国最大という。そこからバスで3時間、夕方のシェークスピアの町・ストラトフォード・アポン・エイボン着。翌朝早くホーリー・トリニティ教会に行き、シェークスピアと家族のお墓を訪ね、大学のときしほられたシェークスピアの作品などに思いをはせた。

次いでオックスフォードへ。大学の町の雰囲気の中、私たちのいまの祈禱書の祖・トーマス・克蘭マー・カンタベリー大主教らが処刑された場所や記念の塔に歴史の重さを感じた。グロスターに移り大聖堂を訪問、翌日はウエル

川口基督教会 創立140周年のご案内

日時… 2010年9月23日(祝・木)
場所… 川口基督教会(大阪教区主教座聖堂)
大阪市西区川口1-3-8

- 記念感謝礼拝 午後1時～3時
司 式 大阪教区主教 サムエル 大西 修 師父
説 教 日本聖公会首座主教・北海道教区主教 ナタナエル 植松 誠 師父
- 記念祝会(ティーパーティー) 午後3時～5時
- 記念感謝コンサート 午後5時半～7時
～み手の中で～
クリスチャン・アーティスト 森 祐理 さん

ズへと足をのびし、西端のデ―ビッド岬に近いセント・デービッド大聖堂を訪問。おりに聖職按手式が終ったところで、主教さまや聖職・信徒の方々が多くおられ、何人かの方々と歓談。ウエールズは現カンタベリー大主教ローワン・ウイリアムス師父の出身地とあって、ある主教さまは「彼とは仲良しだったよ」と懐かしそうに話された。そして、めったに行くことは出来ない「最果ての岬」をあとにブリistolへ。

ここでは大聖堂が教会の行事のため中に入ることはできなかったが、セント・メアリー・レッドクリフ教会では閉まっていた扉が「奇跡的に」開いて私たち一行が迎え入れられ歓迎を受けた。翌日はソールズベリーに移り、英国でもっとも美しいとされる大聖堂で主日の聖餐式にあずかった。式後、主教さまや女性司祭をはじめ多くの方々としばし歓談。「わたしはフォス主教の孫です」と名乗られたご婦人(次ページ4段目に続く)

第1200回「祈りと証しの会」 山野上司祭、聖職への召命語る

伊藤 良二

連合男子会の主催する祈りと証しの会が、6月5日(土)午後6時から守口復活教会で行われた。今回の証し人、山野上素充司祭は、「中学時代から芦屋聖マルコ教会で育った私が守口復活教会へ転籍をし、そこで聖職志願することになったのは、神の深いご計画があったと信じます。」と前置きをして次のように証されました。

「1966年12月の常置委員会、守口復活教会の将来を考える委員になったのがきっかけで、1998年4月に転籍しました。教会では、プロジェクトチームを設置して、牧師館を会館として使うことを考えだしましたが、この案は現実的でなく、『新しいものを建てよう』と考えました。しかし、会館を作ってもどのような活動をするかアイデアがなく、牧師が派遣されるかどうか不明からなく、意気が上がないままに月日が過ぎました。このような堂々巡りの解決の糸口になったのは、2001年秋に私が聖職志願したことでした。



将来、定住の牧師が与えられる希望ができ、守口復活教会の活動の柱を、サポート・ハウスをとおして地域社会へ仕えることとし、会館、牧師館、サポート・ハウスを建設する方向へ進みだしました。聖職志願をするかどうか迷っていた私の背中を押したのは、亡くなった小川司祭がさ

れたある日の説教でした。【自分を捨てる】とは『自分の生活に見切りをつけると言うことですか』と話された時でした。サポート・ハウス守口ぶどうの家の建設と私の執事・司祭按手とは同時並行して進みました。守口復活教会で働くようにと招いてくださったのは私一人ではなく、家内と二人をセットで選ばれたのです。私たちがキリストを選んだのではなく、神が私たちを選び出し、用いてこのように働かせてくださっていることを感謝して、神をほめたたえます。」

証しの会は1980年堺聖テモテ教会の竹中忍兄が証し人となり第1回が開催され、証しされた人は実に140人(内聖職者29人)にのぼります。30年間に亘り引き継がれたこの祈りと証しの会が益々神様のみに適い、み栄をあらわすことが出来ますように。又将来も引き継がれますように。

〔次回の予定は 9月11日(土) 証し人・福田光宏司祭 大阪聖愛教会にて〕
（いとう りょうぞう 芦屋 聖マルコ教会信徒）

(前ページより続く)

と感激の握手、そして記念写真。そのあとウインチェスター大聖堂を経てロンドン着。

当地では4泊し、ここを起点にカンタベリーや、ロンドンから東北へ車で約2時間のイプスウィッチやイーリーへと足を伸ばし大聖堂を訪問。

カンタベリーではキャノンのクリストファー・アービンの司祭さまが出てこられてしばし歓談、大聖堂の一般の人々が入られないような所にまで案内していただいた。

ロンドンでは一夕、英国立教学院のチャプレンとしてロンドン近郊に在住の元大阪教区主教・高野晃一師父ご夫妻と食事をもにすることが出来、懐かしさにはしばし時を忘れる思いだった。

明日は帰国という最後の日は、朝早くウエストミンスター・アビーに行き、「朝の礼拝」に参加のあと、「使徒聖ペテロ・パウロの日」の聖餐式に招かれ、20人ほどの会衆の方々とともに聖餐にあずかる恵みに浴した。またその夕方、セント・パウロ大聖堂の「イーブンソング」(頌詠

晩禱)に出席したとき、一同がクワイアー席に招かれ、隣りの席の聖歌隊のすばらしい歌声に感動しつつ、感謝の祈りを献げた。礼拝が終わって、司式にあたられた大聖堂のキャノンで、ロンドン教区ケンジントン地区担当のマイケル主教さまと歓談。主教さまは「巡礼最後の日、この大聖堂で共に礼拝ができ、よかったですね」とねぎらってください。一同胸が熱くなる思いがした。

旅の12日間、英国では珍しく晴天続きで、日差しがきつい日々スケジュールは一行には少しハードだったかもしれないが、行く先々で当地の聖職や案内の方々、また信徒の方々の好意に満ちた笑顔と言葉に接し、世界に広がる聖公会の属する者としての喜びを何よりのお土産として帰国することが出来た。7月2日朝、関空の出口では、出発の時と同じ満面の笑みの大西修主教さまのお迎えをいただき、新たな力を与えられてそれぞ

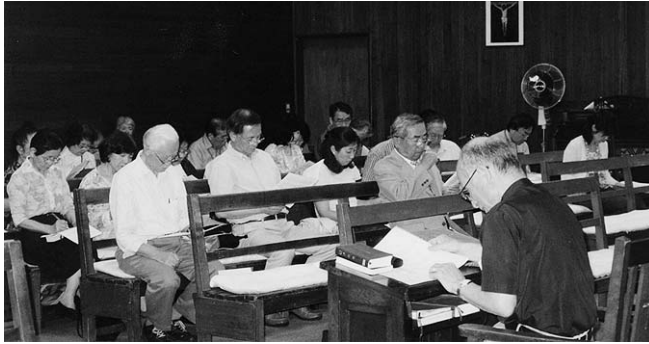
れの家へと向った。
(おおはし たかし 川口基 督教会信徒)

『阪神3教会信徒の集い』開かれ

奥司祭から「懺悔」の学び

イサク 伊藤 良二

阪神3教会が年2回持ち回りで開催していたこの集いも3順目に入り7回目を迎えた。梅雨入りした直後の6月13日(日)大雨の降る中、芦屋聖マルコ教会で午後二時半から開催された。当日の講師は奥康功司祭(西宮聖ペテロ教会



牧師)で「祈禱書の懺悔について」学びの時をもった。師は祈禱書が1549年の第一祈禱書から5回にわたって発行され、その性格・特徴から紐解かれ、聖公会の礼拝の現状と最近の動向を述べられた。戦前、戦後、そして現行祈禱書の懺悔の違いについてを話された。タツカー、フッカー、ボンフェツファアの言葉から

○なぜ懺悔が必要なのか
○懺悔は聖公会の靈性において大変重要である。悔い改めの始まりは懺悔である。○罪の告白と赦し、について明快に話された。

第2部は馴染みの少ない聖歌を2曲勉強し歌いました。その後お茶を飲みながら、各教会の報告と歓談の時を持ち、4時半過ぎに解散した。参加者は3教会で45人であった。(いとう りょうぞう 芦屋聖マルコ教会信徒)



聖ガブリエル教会ではじめての開催

市内南ブロック4教会合同礼拝

大阪聖アンデレ、大阪聖愛、大阪城南キリスト、聖ガブリエルの四教会は、6月27日(日)に聖ガブリエル教会で合同礼拝を開催した。参加者は80人。

同教会での開催は初めてで、半数近い人が初めての訪問であった。信施56,830円

は聖公会生野センターのために献げられた。午後には同センターの見学や、同日開催の会員総会に出席する人などがあつた。

「パレスチナ／イスラエル問題は宗教紛争か」

城南キリスト教会でラブキン教授が講演

ユダヤ系ロシア人でカナダ・モントリオール大学のヤコブ・ラブキン教授を迎え、4月25日(日)午後2時より城南キリスト教会において講演会を開催した(教区宣教部と京都教区をはじめキリスト教諸教派、市民グループ共催・協賛)。参加者は131人。

同教授は近著『トラーの名において』が邦訳されての

記念の来日で、ユダヤ教徒として現在のイスラエル国を鋭く批判している論客である。聖霊降臨日に各教会に配布された信施奉献先・JVCの「パレスチナ・ガザの子どもたちの栄養支援を！」(藤屋リカ氏)に添えて、図書新聞に掲載されたラブキン氏の論旨を掲載した。



教 区 の 動 き

常置委員会報告

5月11日(第8回定例)

5月17日開催の第7回議事録を承認した。

I. 主教報告

- ① 教区の行事、主教の予定
- ② 第58(定期)総会報告がなされた。
- ③ 大西主教は、6月25日聖バルナバ病院の理事長に就任する。
- ④ 日本聖公会婦人会総会において、次期会長は横浜教区から選出されることが決定した。

II. その他の報告

- ① 教務局長より次の報告がなされた。
- ・「教会の建物に関するお尋ね」アンケートに6月10日

現在、15教会から回答があった。本件は、第一段階としての資料集めであり、建て替え、修理を必要とすると思われる教会と情報交換をし、教会の思いと教区の将来計画とすり合わせしながら必要なアクションに結びつけることができる委員会を設置し、そこで検討することが好ましい。

夏の管区関係諸プログラムに参加者が決定した。

- ・ 日本聖公会第2回韓国スタディーツアー6月7日～11日 成岡宏晃(アンデレ)
- ・ 2010年沖縄週間／沖縄の旅 6月18日～21日 鍋島守一、鍋島久美子(ヨハネ)
- ・ 多民族・多文化共生キリスト者青年現場研修プログラム 7月30日～8月6日 浅海由里恵(ガブリエル)、真子義人(贖主)
- ・ 広島平和礼拝2010 8月5日～6日 大西 修、内田 聖(川口)

III. 協議事項

- ・ 日本聖公会プレ宣教協議会 8月18日～20日 山野上素充(財務担当者)、成岡宏晃(青年・アンデレ)、池本真知子(女性・ガブリエル) 千松清美(女性・聖職候補生)、原田光雄(教役者)
- ② 5月一般会計報告がなされ、承認した。

1. 教区審判廷開廷場所の決定の件

7月8日の教区審判廷を川口基督教会にて開廷することを決定した。

2. 2010年度教役者・職員夏季手当案承認の件

教区から支給しない人も氏名をあげて、漏れがないように確認するよう要望を付して原案を承認した。

3. その他

以前から懸案になっていた「菰野の土地」を可能なら売却処分することを財務委員会に検討願うこととした。

以上

大阪教区・京都教区合同常置委員会報告

日時…2010年6月11日
(金) 17:30～19:40
場所…京都教区センター

議 事

1. 前回(2月13日)の記録を承認

2. 主教報告

高地主教より

- ・ 管区小審判廷が7月5日に京都聖ヨハネ教会で開廷される。
- ・ 総会で教区間協働の経過報告を出した。かなり多くの報告、充実した報告になっている。
- ・ 教区報「つのぶえ」のコラム「隣・針の穴」で大阪教区の各教会について掲載しているが、7月号で最終になる。
- ・ 岸和田復活教会に8月より林永寅(イムヨンイン)司祭が赴任する。
- ・ 大西主教より
- ・ 林正樹聖職候補生が4月より大阪聖パウロ教会で勤務

している。
4月から月一回一年間の「教会奉仕者のための学び・ウイリアムス神学館特別出張講座」のプログラムが始まり、35人が受講している。
教会に消火器が投げ込まれている事件で、聖公会は被害にあつてはいないが、注意を喚起している。
教区創立記念日が6月5日であり、特祷を作成した。
それに近い主日である6日に各教会で特祷を献げた。

- ・ 京都教区の審判廷の申立人が大阪教区で被申立人になつて、大阪教区で7月8日に開廷される。
- ・ 各教会と諸施設の建造物の調査をしている。博愛社、三光塾、東光学園など、施設の新築増築が増えている。
- ・ 愛光幼稚園が4月から学校法人になった。
- ・ 日本聖公会婦人会の役員を3年間大阪教区が担つてきたが、先日の総会で横浜教区が次期役員選出教区となつた。

教区関係教役者 逝去者記念聖餐式

◇ 9月8日 (水) 11:00 ~

於：主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者：山本 眞司祭

- 4日 執 事 ラザロ 布施 好古 (1938)
- 6日 主 教 ヨハネ 名出 保太郎 (1945)
- 9日 司 祭 ジェームズ・J・チャプマン (1946 英)
- 11日 司 祭 チャールズ・ハムデン・バジル・ウッド (1941 英)
- 12日 主 教 ヘンリー・エヴイントン (1912 英)
- 14日 宣教師 ドロシー・サローム・ワインウイelson (1963 英)
- 23日 主 教 ペテロ 柳原 貞次郎 (1973)
- 司 祭 ドナルド・F・ウインズロー (2000 米)
- 25日 司 祭 田中 正之助 (1927)
- 27日 宣教師 エルシー・メイ・ベイカー (1977 英)

◇ 10月13日 (水) 11:00 ~

於：主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者：竹内信義司祭

- 2日 司 祭 ジョージ・チャプマン (1940 英)
- 9日 主 教 ヨハネ 山田 襄 (1993)
- 12日 司 祭 マルコ 岡 精三 (1997)
- 16日 主 教 ペテロ 松井 米太郎 (1946)
- 主 教 サムエル・ヘーズレット (1947 英)
- 18日 司 祭 ステパノ 木庭 孫彦 (1928)
- 20日 司 祭 チャールズ・セオドア・ワレン (1949 英)
- 23日 司 祭 ステパノ 遠藤 敏雄 (1971)
- 24日 司 祭 深田 直太郎 (1945)
- 司 祭 ペテロ 横田 久明 (1995)
- 25日 宣教師 イブリン・アリス・レーン (1971 英)
- 29日 司 祭 セオドシアス・ステファンズ・テイング (1927 英)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前 11 時から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご出席ください。



謝！
終了の頃にはひどく降っていた雨も上がり重ねて感謝！

3. 懇談事項

★建造物に対する調査書のフオーマットを、京都教区に提供することとした。

★大阪教区の教区報でも京都教区の各教会の紹介を掲載できるとよい。毎月の発行ではない

★ウイリアムス神学館の状況報告がなされた。

★聖公会生野センター新拠点での活動状況が報告された。

★守口ぶどうのいへの最近の活動状況が報告された。

4. 1日人事交流について

・京都教区は全員ではない。今年は大阪と同人数である。



祝受洗



東豊中聖ミカエル教会

ヨセフ

巖

清

(6月15日)

芦屋聖マルコ教会

マーガレット 吉住 咲香

(7月18日)



祝受洗



東豊中聖ミカエル教会

マルコ

山本 眞嗣

(7月25日)

守口復活教会

ペテロ

青山 政利

(5月30日)

魂の平安を 祈ります

庄内キリスト教会

達間キヨ子

(6月25日・98歳)

東豊中聖ミカエル教会

アンナ

岩本 明美

(6月21日・56歳)

高槻聖マリヤ教会

セシリア

林 克子

(7月1日・67歳)

教会・施設の動き

東豊中聖ミカエル教会

ヨセフ 巖 清

(7月21日・98歳)

富田林聖アグネス教会

○教区婦人会代表者会が7月13日(火)当教会に於いて午後より行われました。内田司祭様はじめ19人の代表者の方々をお迎えしました。少人数の教会だけに聖歌の歌声が礼拝堂に響きわたり、聖徒の交わりの喜びを力強く感じさせていただきました。会議の中で現状の歩み、方向性等話し合われるのを傍聴させていただきました。代表者を送っていかない私どもだけに感謝でした。会議終了の頃にはひどく降っていた雨も上がり重ねて感謝！